
好きしょ！ワールド妄想トリップ

綾野雅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

好きしょーワールド妄想トリップ

【著者名】

綾野雅

N1182E

【あらすじ】

『好きなものは好きだからしようがない』の一次創作作品です。ぎりぎりBLですが、年齢制限のあるような描写はないのでパロディー短編として読んでください。

～ブログ～始まりはバトンから…

ブログを通してもらつたバトンから書いた短編です

バトンのタイトルは「妄想トリップバトン」

いかにもタイトルからして怪しげなのですが、指定された世界で妄想大爆発しちゃつてくださいというバトンだったのです（苦笑）。

難解極まるこのバトン。

みやびはちやんと現実世界に戻れるんでしょうか…。

漬物石のよがなおもい不安を抱えながら挑戦してみたいと思いません。

す。

「お～い、誰か。命綱、持つてくれ～！～」

【質問1】前の人指定した世界は？

”好きなものは好きだからしょ‘つがない！（略してすきしょ）”

まつ、マジっすか（滝汗
この純情の塊のよつな、いたいけな少女にあんなアブない世界を指定されるなんて…。
よよよ。

（ああ、もうすでにイッちゃってるよ、この人）

誰がイッちゃってるですか！失礼な、ふんふん。

（あんただ、あんた。なうにうが、いたいけな少女だ。いい年こいたオバさんが）

おつ、おば…つて、あんた一体何者？！

そつ、その夏みかんのよつな派手な髪は…けつ、敬介…！…！…！

（だ～れが夏みかんだ！ハンサムで超かつくいい立花敬介くんたあ、オレのことだ！

まいつたか。わ～っはっはっは

参つたかつて、あんた、私が創つたんだけど？

（うつせえ！こななかつくいい敬介さまを差し置いてカミングが主役だあ？）

いや、主役は勇希だよ。彼はまあ、準主役といつが…。

(しかも、続編が出たと思えば主役がこれまで新人つたあどうこう了見だ、ええ?)

なんだ、その言葉遣い。あなたは江戸時代の人間か?

(「うむせえーそこになおれ!たたつ切つてやるー!）

あ～～れ～～。お代面さま～～。

『あの～、いい加減くだらないことやめてトロップしちゃつてくださいよ』

お!そういうえばすっかりお題を忘れていたわ・・・。
それにも、こんなかわいいキャラ、うちにいたつけ?

『私、新人キャラのレルムです～。普段はアイドルなんですよ』

おお～。そうだった、そうだった。普段はネ「語じやないんだった。

『当たり前です～』

でも、かわりにぶりぶり口調なんだね

『アイドルですか～』

(「こつらオレを無視しやがって…ていつー!）

うわ、人の首根っこ掘んで何を!

敬介め!! 覚えて!! !!

卷之三

（注：良こそはマネしないでね）

【質問1】前の人指定した世界は？（後書き）

次ページから『好きしょ』の世界にトリップします。原作を知ってる人は各キャラの台詞をオリジナルの声優さんボイスで（脳内変換して）お楽しみくださいませ

【質問2】田が覚めるとい、やまは・・・?

あ、いつた～い。まつたく、いたいけな少女を投げるとはなんて野蛮な…

(まだ言つてる)

どんな教育を受けたんだ、あいつは。親の顔が見てみたいつてもんだわ (お前だ)

ぶつくれ言つながら周りを見回してみると、いつの間にか外にいた。背の高いコンクリート製の塀のそばには等間隔に桜の木が植わっていて、時折吹く風にピンクの小さな花びらが辺りに舞つていて。久々の桜に目を奪われつつ塀に沿つてのんびり歩いていくと奥に4階建ての校舎が見えてきた。

や～、これぞ「ザ・日本の高校」つて感じだね！懐かし～。

みやびが高校に通つてたのはいつだつたか… (遠い目)

にしても、今ちょうど登校時間つとこかしら。制服姿の男子がいっぱい歩いてるワ。

しかもどの子も女の子みたいにかわいいじゃない。今の子つてみんなジャニーズ系みたくなよなよした子ばっかりなのかしら。筋肉むきむきっていうのも暑苦しいけれど、女の私より線が細いつてのもどうなかつて思つわね。

そんなことを思つてみると、田の端に周りとはあきらかに違つた才

一「をまどつた学生が見えた。180cmはゆうに超えているで、さうその男は他の生徒と同じ白い学ランを着てはいるものの、どう見ても二十歳をとつぐに過ぎた風貌をしている。その短く刈り込んだ銀髪に見覚えがあつたあたしは思わずかけよつて声をかけた。

「ちよつと満?...」

あたしの声に巨漢の男は「あぐー」という音が聞こえ、さうなほど大げさに体を震わせると、ゆつくつとこちらを振り向いた。

「やつぱつ...」

あたしがわざといついため息をつけてみせると、満は居心地悪がつて、うつ向いた。

「向やつての、じとじとでへてか、そのかつて、何?」

『あ、いや、これは、その...』

「ん?」

『実は...他のやつより先に本編*での出番もなくなつて、落ち込んでたんだ...。そしたら敬介が、いつの作品で使つてもう使えるかもしないつて...』

「...」

『やつぱりダメか?』

小さな声でそつたずねる満を見て、なんとか悪いことをしてい

るよつた氣もするが、だからといって簡単に出来ちゃう、なんていうわけにもいかない。

「いや、ダメって言つたか…」わ、もともとフランクションだし。それ以前に高校生って設定には無理があるつしょ。あ、まー、先生つて手はあるかもしないけど…、満つてあつた(B-)の興味があるんだつたつけ?」

『あつね…とは?』

「あ、普通は知らないか。ちよつと耳かしてみ」

素直に耳を貸す満にあたしが「あんじ」とやれやれと、満の顔がわあ~っと震褪めてこぐ。

『すつ、すまん!用事があつたのを思つて出したー!それじゃー!』

やつぱつたかと悪つと、満はあつとこつ間に走つ去つてこつた。

はあ、やれやれ。ま、満には悪こなび、いこはあれでよかつたのね。

しかし、それにしても女子生徒の姿が見えないわね…。

ん?ちよつとまでよ。確かにこは指定された世界…。とこいじとせ、

げげつー男子校!ー

どつ、どーすんのよ?男子校になんて通えないわよ。で、年齢的に学生つて柄でもないわよー。いつ、困つた…。これからどうすれば…。

【質問2】田が覚めるとい、ナリは・・・? (後書き)

* 本編：連載中のオリジナル小説『Guiding Star 2 Lux Speli 希望の光』のこと。この作中で満は最愛の女性を守るために戦い、不幸にも敵によつて操られた彼女自身の手によつて命を落とした。

【質問3】貴方には不思議な力が備わっていました。その“能力”とは？

「せんぱい！」

悩んでいたと、背後からやけに元気な男の子の叫び声がした。
反射的にあたしが振り返ったのと、かえるを踏み潰したような声が
聞こえたのはほぼ同時だった。

『ぐげつ！い・市川～～！！お前なあ…（怒）』

聞き覚えのある声が大声を張り上げた。
も…もしやこの声は…（はあと）…！…

声のほうに視線をやると見るからに元気いっぱいの少年が、自分より身体の大きい少年に馬乗りになつてゐる。いかにも楽しそうに笑つてゐる少年に先輩はまだ地面につつぶしたまま、不機嫌そうな声をあげた。

『なんだつてお前はそういうつもいつつも俺に蹴りを入れてくるんだよ!』

「えへへ。だって、ぼんやりとしている先輩が悪いんだぞ。オレ何度も声をかけたのに…」

ぼさぼさ頭で怒鳴つてゐる「先輩」を尻目に市川と呼ばれた青年はこれつぽつちも悪びれた様子も見せない。それどころかまるで子犬のように大きな田をうるつるさせたかと思うと、なんとか立ち上がつた先輩に抱きついていた。

『べわひ、やひ、やめひー離れひーーー』

「え~いこじやんか。減るもんじやなし……」

『減るんだよーだつ、だいたいお前は永瀬が好きなんだひつ?なん
でオレノ抱きつくんだよ?』

「だ~つて、オレ、空先輩も好きなんだも~ん…あれ?」

『んあ?』

『ほひくほじやれつこ~いた市川がふつと』ひびく視線を向けた。

「あれ~。君、だれ~?なで~んなどこで~るの~?~?」

『あれ?~うこや、初めて見る顔だな。誰だおまえ?』

市三の姫ひびと呼ばれた青年もいつかに注目した。

「わ~、私は~その~。とつ、通りすがりの女子高生だすーーー(焦)

』

「はあ?女子高生にしきゃ~年へつむよ~な~、べ~ひーーー』

「わや~、べ~したんですか~?そんな変な声だして~

ぶりぶりこ振舞つあたしの右手は空の顔にめりこじやいた。

『いじ~いじ~。藤守よつ手え早えんじや~』

「あ～もしかして転校生？」

市川が引寄せつりながら、それでも興味津々に聞いてきた。

「あ～、やうなんですか～。でも、ひいて男子しか入れないんですね～」

(「ひ～…しまつた。レルムのぶつぶつ口調がついつてしまつた)

『ま、男子校だからな。…つか、お前男じやん?』

「え? ? ?」

あたしは空の言つてこなしがよくわからなくて、おもわずすうとんきょうな声をあげた。

『それに、女にしづや～胸も洗濯板のよつ・・・「わがやつ・』

アッパー・カットに空の体が吹つ飛んだ。

「わ～りせんぱ～い。ど～行くんだ～? もつすぐ始業のベルがなるぜえ～」

今や空の藻屑と化した先輩に向かつて市川は暢氣なものだった。

まったくこんなか弱い少女を男だなんて…こへり空でも許せなん?

一人むくれたところで、あたしは何か違和感があるのに気がついた。なつ…なんか下半身にみよ～な感触が…

「ちよひ、ちよひと市川へるー、トイレジ！」

「んあ～？ 校舎入つて右側だけど～。あ、オレつこいつてやるよ」

「ついてつて…ま、まあいいわ。早く案内してちよひだい」

独り個室に駆け込むと急いでスカートをたくしあげる。

や、やはし…。

あるはずのないナーナにあたしの手が触れて、あたしは呆然と立ち尽くした。

が～ん。

「う、これは一体…。これもこの世界に入り込んだじゃつたせいなの？
とにかく、これは異常事態だわ。どうしよう…。」

とうあえず衣服を正して個室の中で今のとんでもな状況に悩んでいるあたしの背後に突然何者かの影が現れた。

だつ、誰？

（お前は今まで知らなかつたのだらうが、実は好きな性別に変化できるといふ能力を持つてゐるのだ）

綺麗な金髪をなびかせた男がそう囁いた。

あ、あんたは…ダコス？！なんでこんなとこに…。

（それは私の美貌に歎殺されたこの女たちからのあつ～い期待に答えるためだ）

なにがあつに期待よ。まあ、いいわ。そんなことよつ、好きな性別に変化できるつて…。

（やうだ。その能力をえあれば、この世界ではやりたい放題。もつ、うれしくつとうつぱうせ、つてことだ）

なつ…なんておそれしこじとを。

（ふつ。その力をどう使つかはお前の自由。楽しませてもらひことを期待するわ）

ダコスはやういい残すとあつと言ひ聞こ便器の裏に消えていった。

【質問3】 貴方には不思議な力が備わっていました。その“能力”とは？（後

ダコスが言つ『うつはうは』の能力。あなたなら何に使う？・18禁
にならない程度でコメント募集します

【質問4】最高責任者と面会する事になりました。まあ、どうしますか？

がっくり肩を落として外に出ると白衣を着た長身の男にぶつかった。はつとして顔をあげると眼鏡の奥にナイフのような冷たい視線を秘めた男が冷ややかにじらじらを見下ろしている。

「げつ…。永瀬…。」

『ん？ 初めて見る顔だな？ なぜ俺の名を知っている』

「あつ、芥つ。こいつ、転入生なんだってさ～」

隣にいた市川が瞳をきらきら輝かせて白衣の男に寄り添つた。

『ほつ？ 転入生？ それにしても女のような服を着ているが？』

冷たい永瀬の瞳がきらりと妖しい光を放つた。

ひつ…ひえ～～（滝汗）

「いやつ、そのつ、ま～だ制服が出来てこなくつて～」

焦りながら答えるあたしを永瀬はしばらく無言で見つめていたがやがてにやつと唇のはしを歪ませて笑みをつくった。

『そつか。明らかに不審人物というわけだな…。本来なら相沢に付き合わせるところだが、あいにく今は留守だったか。ふつ。まあ、いい。今度モルモットにでもなつてもらうから楽しみにしてこる』

とだな』

ぐげつ。

相沢がいなかつたのは不幸中の幸いだが、永瀬はその息子。
しかも怪しげな薬品を扱わせれば天下一の薬品オタクだ。
そんな奴のモルモットになんかされた日には命がいくつあってもた
りやしない。

やむを得まい。『じは…。

ぐぬつと踵を返すとあたしは一田散に逃げ出した。

『ふつ。じに逃げても同じこと』

背後で永瀬のいやに自信ありげな声が聞こえた気がしたが、そんな
ことにあたしは構つていられなかつた。

【質問5】宿がない！――誰の家に泊まりますか？

校舎を飛び出し、やみくもに走っていると少し離れたところにアパートのしきしき建物を発見した。

門の前を赤いジャージにほつかむりとい、イマドキ有り得ないださださなかつこうをした華奢な人物が、ほつとき片手に忙しそうにしているのが見える。

ここにはもしかして…。

『あら？あなたは？』

しばらくして、こちらに気がついたその人はビックリ女っぽいハスキーボイスで問いかけた。

や、やはし、七海ちゃんか…。

「今日転入してきたんですね～」

としなをつべつてみると、そんなもの、この天然に効くわけがない。

『ええ？転入生？おかしいですね、そんな話は聞いていませんが…』

やはしどうか、完璧スルーダ。マジメにかわされてしまった。つづ、おそれべし…。

「れつ、連絡がうまくいってないことかで、その……」

『あら、どうなんですか～』

暢気に嘘を信じてゐる七海。ふつ。ちょろいぜと思つたのも束の間。う～んとひとしきりなにやら考えてから口を開く。

『もしかして、学園寮に入居する予定でしたか?』

「そうか…。七海はここに住んでるんだった。う～む。どうしよう。たしかここは一人部屋。今部屋に一人なのは祭ぐらいのもので、空き部屋もなかつたっぽい。どうするよ～。祭と一緒に?』

う～ん。悪くはないけどちやつかりものの祭と同室なんて、絶対いや～なことを頼まれ そうな予感がする…。空はいつもそれでひどい目にあつてるんだよなあ…。

かと言つて七海ちゃんの部屋に転がり込むのもなんだかなあ。

水都がやつてきたりしたらと思つと…「だや～（冷汗）

脳裏に映し出された嫌な光景に口が利けないでいるあたしには気付かず、七海はまだ何か一人でぶつぶつ言つていた。

『う～ん。それは困りましたね。今はどの部屋もいっぱいなんですよ…。

少し前なら羽柴くんの部屋が空いていたんですけどねえ。今は藤守くんがいます…。

仕方ない、寮長の本郷くんの部屋にでも…』

うげ。やつぱし祭と同室か…。まあ、それも仕方ないかと無理矢理納得しようとしたその時、寮の奥から怒鳴り声が聞こえてきた。

「もうー！羽柴のバカ！僕はもう祭りやんの部屋に移るからねー。」

赤い長髪を後ろでくくった華奢な少年が顔を真っ赤にして、なにやらふりふり怒りながら田の前を通りかかる。

『あ、藤守くん。どうしたんです？そんな大声を出して？』

七海がのんびりとした口調で声をかけると藤守が驚いたように振り向いた。

『どうやら怒りのせいで周りが見えてなかつたらしく。』

「あー、七海せんせー」

急にねとなしい口調になると藤守はなぜかしそうに俯いた。

『どうしたんです？また羽柴くんと喧嘩でもしたんですか？』

なだめるように囁ひ七海に藤守は少しだけ殊勝な顔をしたが、こいつを見た途端、急にその田つきがきつくなつた。

「ナリ…もしかして？」

問い合わせる口調まできつこ。まるで夫の浮気相手でも問い合わせるかのような口調に思わずたじろいでしまつ。

『ああ、彼は新しく入った転入生ですよ。ええと、名前は…』

「あー、綾野」

藤守の剣幕に気付いていないのだろうか、相変わらず穏やかに話す七海にあたしは反射的に苗字だけ答えた。

「新入生…。やつぱりキミが…」

ギロリと睨まれて肩をすくめた。

藤守がこんな田であたしを見る理由がわからない。第一初対面で人にメンチ切るなんて失礼じゃないか。一言いつてやろうと意を決したあたしを藤守はすっと無視すると七海に話し掛けた。

「七海せんせい、俺、祭ちゃんの部屋に移りますから」

『え？ 本郷くんの部屋にですか？ でもどうして…？』

「羽柴が…」

『羽柴くんが？』

「俺よりも手の早いやつにあつたつて。どこかの野蛮人と同じみたいに言つたんじや」

そう言つて藤守はきっとあたしのほうを睨みつけた。

手の早い？？ああ、もしかして、さつきのアッパーの「と～（汗）たはは。やっぱ、あればやりすぎたか…。

にしても、なんでこいつに野蛮人呼ぼわりされにゃならんのよ。あんたの手が早いのだけて実証済みでしょ？が…！

その時あたしの脳裏に悪魔の声が浮かんだ。

『え？でも、本郷くんの部屋には綾野くんが…』

「先生、あた、いや、ぼ、僕のことは気にしないでいいですよ」

『え、でも…それじゃあ君が困るでしょう？』

「いいえ、僕が羽柴くんと同室になりますから。ねえ、藤守くん？」

そう言ったあたしの顔には意地悪な笑みが張り付いていた。

【質問5】宿がない……誰の家に泊まりますか？（後書き）

わあ、ヒツヒツ藤守を敵にまわしてまであたしがとった行動は？
ヒツヒツで、またまた次回ヒツヒツ！

【質問6】貴方が「」の世界で必ずやつたいたい事は？

とは言つたものの…。

あたしは藤守が昨日まで使つてこだベッドの上で何度もかのため息をついた。

空は人なつっこい笑みであたしを新しいルームメイトとして受け入れてくれたけど、彼の心に藤守との喧嘩がひっかかっているのは誰の目にも明らかだ。

日課のトレーニングに遅くまで出ていた空はシャワーをあびると鬼のように深く寝入つてしまつている。

とりあえず、うまく学園にはこなれることができたけど、ダコスのやつ、いつたにこの状態でどーしゅうして叫ぶのよー。やりたい放題つたつて、あたしは見た目、男の子（？）になつてゐつていうのよ…。そりやま、藤守だつて男の子だけじゃ。…いや、そりこいつ問題じやなくつて。

ん？までよ。ダコスはあたしが好きな性別になれるつて言つてたつけ…。
でもどうやつて？といふ、とにかく試してみるか。

あたしはとにかく頭の中である「」を念じてみることにした。それから数十分。

おお。戻つてんじやん。

どうこうわけがあたしの身体はもとに戻っていた。

「う、これは襲うしか…。」（マジか？汗）

いやだつて、読者のみなさんだつて、きっとそれを期待してゐるし……。

あたしはびきのする洗濯板のような胸を押さえながら隣のベッド
の中にいる姫に抜き足をしあじで近づいてみる。

下に落ちていた。

ハシャゞの代わりに部屋着のズボンとTシャツを着てはいるが、
ている間にシャツがずれたのか、へそはまる見えの状態だ。
寝

ああ。まったく、しょうがないなあ。ん?なんだこれ?

空がぎりく抱きしめているピンクのものに田が止めた。
暗闇の中で田を凝らしてみると、どうやら駄菓子屋のゾウ型まぐり（
たしか、トシゾウとかこうや駄菓子）らしげ。

こう、高校生にもなつてぬいぐるみかい（汗）

ちょっと脱力しながらも、幸せそうに眠る空の顔を覗き込む。

うるさい。今ならやつちやえるかもしねい。どう、どうしよう。

(早くするのだ)

頭の中でダコスの声がする。

はつ、早くつたつて……。

(読者のみなさまを待たせるんじゃない)

ぐつ。わつ、わかつたわよ。んじやーいくわよ。そーつと。空が起きなこよつにそーつとね。そーつと顔を近づけて…。

がばつ！！

うわっ！・！・！・！

おそるおそる顔を近づけていたあたしに空かいきなり抱きついてきた。あまりの勢いに天地が逆になる。

いつ：いつたい何が？

わけもわからず見上げると暗闇の中、深い青の瞳でこちらを見つめる空がいる。

彼の顔がゆっくりとあたしに近づいてきた。

……」の展開は、うれしい、あー、いやいや、もうじやないだろ。

ぱーくる頭で考えを整理しようとしたら、あたしの皿が、ふとある異変をとらえた。

「よつ：夜？」

『あれ? なんだ、オレのことも知ってるんだ』

夜はうれしそうにやりと笑つた。空の顔なのに夜の性格が出たと
たん、その笑みは魔性のものへと変わつてゐる。

「しつ… 知ってるわよ。それより、なんであんたが出てくんのよ？ らんがいの場面、見たら怒るわよ」

『ああ～。そうだね。でも、あいつは今、別部屋だし。めずらしく、この部屋に女がいるからさ、たまにはいいかな～って、ね？』

夜はしつつとした口調で答える。

「たまにほって…。わ、いいかげんがなにこれ。」

『あれ〜? さつきはそつちから寄つてきたよつだつたけど?』

「そつ…それは

しどりもどりになるあたしに夜は意地悪そうな笑みを見せる。

『それは?...は、はん。さて空がお皿持てか』

「うう…うるせこ。早く寝なせこよ。空の身体、勝手に使つてん
じやなこわよ

『そんなこと言わざるにや。ね』

『わべつ！・！・！』

しつけ夜にあたしはおもわす夜の急所を蹴り上げた。

ふつ、ふん。じ、自業自得よ

あたしは悪くないんだから…

そつ言い訳をしようとして、なにか叫び声が妙なことに気がついた。
なつ…なんかいやーな予感がするんですけど…

あたしがけりあげた一矢を両手で押さえてうずくまる夜（？）の顔
を恐る恐るのぞきこんだあたしは、はっと息をのむ。
痛みに涙を溜めた両の瞳は青一色だったのだ。

【質問6】貴方がこの世界で必ずやりたい事は？（後書き）

原作を知らない方のためにフォローすると、夜というのは空の中にいるもう一つの人格で、かなり天然の空と違い魔性っぽい性格なのでした。ああ：にしても蹴られたのは空なんだよね（滝汗）すまん、空、ゆるせ。

【質問】貴方は元の世界に戻れる事になりました。どうしますか？

『いってえ～。あにすんだよ～』

そうつぶやいた声はもう夜のものではなく、空本人のものだつた。
青白い月光の下でもはっきりわかるほど空の田には大粒の涙が溜ま
つている。

なつ、なんで！？蹴り上げた時は確かに夜だつたハズ…。
あたしが頭の中に『くえすちよんまーく』を浮かべていると頭の中
に空のものにしては低すぎる子さんの中の声が聞こえてきた。

（おばかな子猫ちゃん 僕はそんなにマヌケではないのだよ）

その言葉であたしは気がついた。

夜はすんでのところで空の奥底に消えていったのだった。

ひつ。ひええええ～。
夜め～！～ずるいゾ～～！～！

と怒つてみてもしようがない。

案の定、空はめずらしくこわ～に顔でにじりこんでる。

こわ、こわわ退散だわ～やつよ、てつ、撤収よ～。
ちゅつと、レルム！敬介！命綱よ～早く命綱を引きなや…

と自分の腰にまかれているロープをひっぱると切れはしがぴょこん
と皿の前に落ちてきた。

切れてる～～～！！！！

命綱は大事です。特にこのばわいは…。敬介め～。まだ脇役の件、根にもつてゐるな（怒）

＊＊＊

はつ。

大きな声で叫んだところで気がついた。
きょろきょろと周りを見渡してみる。

暗闇の中には普段着が入っているタンスと黒い革張りのイスが並んでいる。目の前にはＴＶやAV機器の乗った戸棚があり、その隣にしつらえられた鏡に寝汗でべつたり前髪をおでこに張り付かせた自分の姿が映っていた。

なつ…なんだ、ゆめかあ～～～。

と、いうわけでぶじ（？）帰還することが出来ましたとさ。めでたし、めでたし。（ホントか？）

【質問7】貴方は元の世界に戻れる事になりました。どうしますか？（後書き）

あとがき：

いや～、二次創作というかそれ以前にBしつて難しいですね。みやびは久々にドタバタが書いて大満足ですが、いかがだつたでしょうか。次にトリップするのはあなたかも。命綱は忘れずに

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1182e/>

好きしょ！ワールド妄想トリップ

2010年10月22日00時01分発行